

タカラバイオ株式会社 2021年3月期第2四半期決算(補足資料)

1. 2021年3月期第2四半期決算について

【決算短信 10 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は、17,393 百万円、前期比 942 百万円 (5.7%) の増収となりました。増収の主因は、研究用試薬と受託サービスでした。
- ・ 研究用試薬のうち、一般研究用試薬は、地域差はありますが、どの地域においても減収となりました。一方で、新型コロナウイルス検査関連製品は、どの地域においても需要が旺盛で、増収の原因となりました。
- ・ 理化学機器は新型コロナウイルス検査向けの PCR 装置の売上増がありましたが、前期に販売を終了した質量分析装置の影響が残り、前期から減収となりました。
- ・ 受託サービスは、増収となりました。再生医療等製品関連サービス、遺伝子解析・遺伝子検査サービスのいずれも好調でした。
- ・ 遺伝子医療は、製薬企業との提携等による対価料収入が減少し減収となりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は 11,827 百万円となり、前期比で 1,498 百万円 (14.5%) の増益となりました。
- ・ 売上高の増加および売上原価率の低減が増益につながりました。売上原価率の低減は PCR 検査関連製品の需要増などによる売上構成の変化や生産稼働率の向上によるものです。

(販売管理費・研究開発費)

- ・ 販売管理費は、8,090 百万円で、前期比 797 百万円 (10.9%) の増加となりました。また、研究開発費は、新規遺伝子治療プロジェクトなどに積極的に投資したことにより 2,403 百万円となり、前期比 544 百万円 (29.3%) の増加となりました。

(営業利益)

- ・ 営業利益は、3,736 百万円となり、前期比 701 百万円 (23.1%) の増益となりました。売上総利益の増益が販売管理費の増加を大幅に上回りました。

(特別損失)

- ・ 特別損失は 539 百万円で、前期比 527 百万円の増加となりました。タカラバイオ米国の一部の機器(旧型の遺伝子ライブラリ作製装置)事業終了を受け損失等を計上しました。

2. 2021年3月期の通期業績予想について

【決算短信 11 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は、40,800 百万円を予想しています。これは、前期比 6,234 百万円 (18.0%) の増収となります。
- ・ 研究用試薬では、上期同様、一般研究用試薬は伸び悩みますが、新型コロナウイルス検査関連製品の需要が強ことから増収を予想しています。
- ・ 理化学機器では、新型コロナウイルス検査向けの PCR 装置の需要増による増収を予想しています。
- ・ 受託サービスでは、再生医療等製品関連サービス、遺伝子解析・遺伝子検査サービスともに増収を予想しています。
- ・ 遺伝子医療では、今期は減収を予想しています。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、25,379 百万円で、前期比 4,273 百万円 (20.2%) の増益を予想しています。
- ・ 売上総利益率は、上期に比べ低下すると予想しています。売上構成などの変化が低下の主な原因です。

(販売管理費・研究開発費)

- ・ 販売管理費は、17,379 百万円で、前期比 2,548 百万円 (17.2%) の増加を予想しています。前期比では、研究開発費や人件費などの増加を予想しています。
- ・ 研究開発費は、5,173 百万円で、前期比 1,303 百万円 (33.7%) の増加となる予想です。おもに遺伝子治療の新プロジェクトへの投資などを想定しています。

(営業利益)

- ・ 営業利益は、8,000 百万円で、前期比 1,725 百万円 (27.5%) の増益を予想しています。営業利益は、12 期連続の増益となる予想です。
- ・ この他、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益など各利益項目は過去最高となる予想です。

(配当)

- ・ 期末配当を前回予想(5月14日)の1株あたり8.00円から、1円増配し、9.00円に修正します。

3. 新型コロナウイルス検査用の PCR 関連製品の販売状況について

- ・ 11月より体外診断用医薬品の承認を得た新製品を国内で発売しました。承認を得る事でより幅広い検査機関で利用していただけることを期待しています。
- ・ 新たに発売した体外診断用医薬品では、従来から販売している研究用製品と同様に、検体からウイルス RNA を精製する前処理工程を必要とせず、反応時間は1時間未満です。さらに PCR 検査の精度確認が行えるような工夫を加えました。

- ・ 海外では、診断薬メーカーや検査センター向けに PCR 関連製品の原料となる PCR 酵素等の販売を中心とした活動を行っていますが、こちらも、多くの引き合いをいただいています。
- ・ これらの PCR 検査関連製品の売上は、研究用試薬のカテゴリーに含まれていません。数値情報は開示していません。

4. DNA ワクチン関連の受託製造の状況について

- ・ 大阪大学、アンジェス株式会社らのグループが進める新型コロナウイルス感染症向け DNA ワクチン関連の受託製造をおこなっています。
- ・ 臨床試験の状況は、開発を主導するアンジェス株式会社よりプレスリリースなどでアナウンスされておりますので、詳細はそちらをご確認ください。現在、第 1/2 相臨床試験が進行中と聞いています。また、大阪市立大学医学部附属病院および大阪大学医学部附属病院で実施の第 1/2 相臨床試験成績を総合的に判断する速報結果を、同社の 2020 年 12 月期 第 4 四半期に公表する予定と聞いています。(アンジェス株式会社 2020 年 10 月 12 日リリース)

5. 米国子会社のハイスループット PCR 検査法開発について

- ・ 本年 6 月 10 日に当社の米国子会社 (Takara Bio USA, Inc.) が取引先企業とともに、新型コロナウイルスのハイスループット PCR 検査法を開発し、取引先企業が米国 FDA の緊急使用許可 (EUA) を取得するために取り組んでいる旨、情報開示を行いました。しかしながら、本件については、現時点では緊急使用許可 (EUA) は取得されておられません。
- ・ 新型コロナウイルス関連で米国 FDA の EUA 制度の見直しが進んでおり、検査資格を持った検査ラボにおいては、EUA 取得を経ずに、独自に構築した検査^(注)の実施を可能とする措置がとられているようです。
- ・ 従いまして、一部の検査ラボでは同装置を利用した新型コロナウイルスの検査が既に始まっています。

(注) Laboratory Developed Test (LDT) と言います

以上